

「共鳴」し合う組織力を ～すべての子どもたちの未来のために～

県北教育事務所長 菊池 栄人

もうすぐ長い夏休みが明け、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきます。教職員の皆様におかれましては、酷暑の中にあっても一人一人の児童生徒の成長を願い、夏休み中の教育活動、9月からの準備や研修等にご尽力いただいていることに心より感謝申し上げます。

これからの季節は、学びを一層深める時であると同時に、行事や校外活動も多く、教育活動が豊かに展開される時期でもあります。一方で、心身の不調や対人関係のトラブル、気の緩みから生じる事故など、子どもたちの安全・安心を脅かすさまざまなリスクを懸念しなければなりません。

今こそ大切なのは、「組織で守る」「組織で伸ばす」という視点です。児童生徒の小さな変化を見逃さず、複数の目で支える「チーム学校」の機能を最大限に発揮すること。そして、学校全体で「この子のよさをどう伸ばすか」を共有し、具体的な支援と機会を積み重ねること。学級担任や教科担当だけでなく、養護教諭、支援員、事務職員等も含めた連携が、子どもたちにとっての安心感と成長の土台になります。

私は、組織力を構築する上で大切なことは、「共鳴すること」だと考えています。ここで言う「共鳴」とは、単なる賛同や同調ではなく、「相手の想いや考えに心を寄せ、自分の中に振動を起こすこと」です。誰かの想いや行動が、他の人の心の弦を震わせ、やがて一つの和音となって学校全体に広がっていく——それが共鳴する組織です。

「先生の言葉に背中を押された」「あの人が頑張っているから、自分もやってみようと思えた」——そんな経験が誰しもあるはずです。共鳴は、組織に熱と広がりをもたらします。職員室での会話、学年会での振り返り、校長先生のひとこと、若手のアイデア。どんな場面も、共鳴のきっかけになります。だからこそ、互いの声に耳を傾け、違いを尊重し、認め合い、支え合う関係性が不可欠です。

校長先生、教頭先生方には、共鳴の「起点」となっていたいだきたいと思います。教室で子どもに寄り添うように、職員室でも仲間の挑戦や努力、そして陰での支えに気づき、「あなたの存在が、みんなの力になっている」と伝えてみる。そのひと言が、誰かの背中をそっと押し、学校全体に前へ進む力を生み出します。共鳴とは、そんな日常の小さなやりとりから始まります。

夏休み明けの新たなスタートにあたり、すべての子どもたちが安心して通える学校、そして「やってみよう」があふれる学校、学級を、共鳴し合う組織力でつくりあげていきましょう。

県北教育事務所としましても、教職員の皆様と共に歩み、よりよい教育の実現に向けて力を尽くしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

夏休み明けに向けた児童生徒への関わりについて

夏休みが終わりに近づくこの時期に不安な気持ちを抱く児童生徒も少なくありません。7月9日付け【生支448号】「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」でお伝えいたしましたとおり、児童生徒の自殺は、長期休業明けにかけて増加する傾向があります。夏休み明け前後の児童生徒の不安や悩みを早期に発見し組織で対応するために、各学校の実態に応じた適切な取組を進めていただきますようお願いいたします。

- ・夏休み中も気になる児童生徒やその保護者に連絡し、児童生徒の心身の状況に応じた支援をする。
- ・夏休み中にも相談できる窓口（24時間子供SOSダイヤル等）をメール配信などで家庭に連絡する。
- ・夏休み明けに面談等を実施し、児童生徒一人一人の心身の状況に応じた支援をする。
- ・心の健康観察等を活用し、夏休み明けの児童生徒の小さなサインを見逃さず支援する。

夏休み中に起こったトラブルがいじめ等の問題行動に発展する事例もあります。8月4日付け【生支514号】「適切ないじめ対応に資するいじめ認知リーフレットを活用した職員研修の実施について（通知）」をもとに研修を行い、引き続きいじめを見逃さず、児童生徒が安心して学べる学校づくりの取組を進めていただきますようお願いいたします。

